お馬の話 その二

白根孝之

お馬の水浴び

皆さんの中にはこの夏のお休を海につかつて暮らした人もたくさんありませう。今度はお馬の水浴びの話から始めませう。

お馬の水浴び！と皆さんはびつくりするかも知れません。あんな大ほきな圖體の馬が水なんか泳げるのか知ら、僕たちだつてボチャ〳〵しか出來ないのにと。けれども、皆さん、度々言ふ通りお馬を餘り馬鹿にしてはいけません。お馬はなか〳〵水泳ぎが上手です。宇治川の先陣爭ひでは、佐々木信綱と梶原景季とを乘せて、渦卷く濁流の宇治川を見事に乘り切つたではありませんか。又明智左馬守は近江の琵琶湖を馬で渡つて居ります。近頃の戰爭でも、いざとなれば鴨綠江だとか揚子江だとかいふやうな大きな河を、兵隊さんは馬に乘つて泳ぎ切らねばならないかも知れません。そんな萬一の場合のために夏になれば騎兵の聯隊では馬の水泳の練習をやるのです。これを水馬演習と申します。

水馬演習は川が海へ注ぎ込むあたりを選んで行はれます。河の兩岸が切り立つた涯のやうなところでは、水馬は出來ません。何しろあの大きな身體ですから、ザンブとばかりに飛び込むといふやうな藝當はとても出來ません。そこで段々に深くなつて行くといつたやうな川口でやります。

川へ入つて行く時には兵隊さんが乘つたまゝで乘り入れます。始めは大抵のお馬が嫌がります。さうでせう、何しろ百貫以上もある大きな圖體を、あの細い脚であがいて泳がうといふのですから、大儀にちがひありません。けれど

も乘手が機嫌を取つたり、叱つたり、勵ましたりして、だん〳〵に川の中へ乘り入れて行きます。川が次第に深くなつて馬の脊丈がこゞかなくなるところで、乘手は右手で馬のたてがみを摑み、左手で手綱をこつて、お馬の横腹にくつゝくやうにして身體を水に浮かせます。そして「ホーラホーラ」こ掛聲をかけて馬を勵まします。お馬はあの長い顏だけを水に浮かせ、耳を立てて、フーッ〳〵こ水しぶきを立て乍ら泳いで行きます。あの四本の脚で犬かきです。陸地を馳けるやうなわけにはゆきませんが、なか〳〵早いです。動物の中では水泳ぎは上手な方です。溺れるまで泳がしたここはありませんが、いざこなるこ一里やそこいらは泳げるのです。そして向ふ岸まで見事に泳ぎついて、すっくこ立ち上り、身ぶるひして一聲高くヒ、ンこ名乘を上げるこころは、なか〳〵勇ましい武者振りであります。

かうして二三日つゞけて水馬の演習をしますこ、やはり夏の暑い時には、お馬も水浴びは嬉しいこ見えて、始めにはあんなに嫌がつたものが、氣輕にズン〳〵水の中に入つて行くやうになります。

水馬演習は騎兵の兵隊さんにこつて、夏の演習のうち樂しみなものゝ一つです。

次には同じ夏の演習でも苦しい演習のお話をしませう。人も馬も汗ダクでクタ〳〵になりながら、何日もぶつ通しで演習をする時は、全くらくではありません。それでも未だ敵の方に向つてドン〳〵馳けたり、お馬から降りてボンボン鐵砲を打つたりしてゐる間はいゝのですが、夜も寢ないで何十里もの長い道を行軍して行く時は、全くやり切れません。身體がつかれるのはこも角く、睡むくつてしようがないのです。お馬もさうでせう。兵隊さんのなかには、いくら氣を張つてゐても耐まらなくなつて、お馬の上でついウト〳〵こ眠り出す者があります。そんな時によく大變なここが起るのです。

それはお馬もつかれてたゞ前の馬に引きずられるやうにして歩いてゐるだけですから、つい足もこがおるすになつて、石ころなぞにけつまづくのです。さうするこ、何しろあの重い身體に重い荷物をのせてゐる割合に、細い脚ですから、ひざつこぞうをいやこいふほどぶつゝけて、大きな

傷をこしらへるのです。一度これをやると馬の前脚が弱くなつて、高い障碍を飛び越えたり、猛烈な速さで駈けたりすることが出來なくなります。ですから、軍隊ではとてもやかましく言つて兵隊さんの不注意を戒しめるのです。乘手さへしつかりと氣を張りつめて乘つてゐて、居睡りなんかせず、お馬がけつまづきさうになつた時に、「ホーラッ」とばかり掛聲をかけて手綱を引き上げてやれば、こんなことは起らないからです。

前にお馬の重さのことを申しましたから、こゝで少し詳しく話しませう。皆さんの中でも重い大ほきい人と輕いチビ公がゐるのと同じく、お馬にもやつぱり重いのと輕いのとがあります。けれども大體にならして今の日本のお馬は百三十貫から五十貫位あります。皆さんが、ざつと三十人くらゐ一緒になつたくらゐと思へば、大した間違はないでせう。然しこれは始めからこんなに重かつたのではなく、日露戰爭の頃にはずつと〳〵小さくて、ロシヤの騎兵の乘つてゐる馬に比べて、ずつと見劣りがしたのです。そこで、これではならないといふので、陸軍の偉いお父さん方が、西洋から大きな强い馬を買入れて、それに赤ちやんを生ませたり、飼ひ方を研究したりして、やつと、よその國に比べてあまり負けないやうな體格に育て上げたのです。この前のオリムピックに西大尉やその他の騎兵の將校が乘つて出たお馬は、かうして日本で育てた馬だつたのです。その前にアメリカのロサンゼルスで西大尉が優勝した時の馬は、日本のではなく、西洋で生れて西洋で育てられた馬だつたのです。この次に東京で開かれるオリムピックには、是非とも日本のお馬で優勝しようといふので、今陸軍の將校は大變なはり切り方です。皆さんも、せい〳〵お馬に應援してやつて下さい。

お馬の成長

次は、お馬の成長といふことに就いてのお話です。皆さんは、今ではそんなに大きくなつて元氣で幼稚園に通つてゐますが、生れるときからそんなに大きかつたのではなく、赤ちやんの時にはお母さんのおつぱいを頂いてゐたのでせう。そして毎日ご飯を頂いて、お父さんやお母さんに可愛がられてだん〳〵に大きくなつて來たのでせう。お馬でも

やつぱり同じです。生れるときから大砲を引つぱつたり、人を載つけて走つたりはとても出來なかつた筈です。ではごういふ風にしてあんなに大きな逞しい一人前のお馬になつて、國の爲に働らくやうになるのか、その大きくなりゆくまでの樣子をお話しゝませう。

今日本でお馬の出來るところは主に北海道、東北、九州などであります。そこにはごうにかして立派な馬を、たくさんつくらうとして陸軍の牧場も出來て居ります。お馬は生れてから四歳になるまでは、これ等の牧場でお母さんと一緒に自由に遊びながら大きくなるのです。牧場といつても、柵でかこつた運動場のやうな小さなものではなく、廣いお山や野原がそのまゝに一つの大きな牧場になつてゐるのです。

お馬はずつと昔、人間に飼はれていろ〳〵の仕事のお手傳をするやうになるまでは、やはり獅子や狼等と同じやうに、森や野原の中に住んでゐて、自由に駈けまはつてゐたのです。それが氣がやさしく、お悧巧なところから、人間に馴れて來て、そのお手傳をするやうになつたものです。牧場はなるべくお馬をかうした自然のまゝの時代にかへしてやつて、そこで氣儘自由に大きくならせてやるところです。

四歳になるとそこで軍隊に入るお馬は、兵隊檢査を受けます。生れつき弱い馬や、身體の具合の惡い馬は、將來軍隊のお馬になつて、兵隊さんと一緒に、猛烈な演習をしたり、萬一の場合には敵の彈丸の中を駈けまはつてお國の爲に盡くすことは出來ません。そこで兵隊さんと同じやうに陸軍の獸醫さんから綿密な檢査を受けて、見事に甲種合格になつた馬だけが、目出度く入營するのです。

入營するには、やつぱり兵隊さんと同じやうに、歩兵、騎兵、砲兵、輜重兵等のいろ〳〵の聯隊に分れます。背がすらりとしてはしつこさうな馬が先づ騎兵隊に入營します。背は低くつてもでつぷり肥つてゐて力の强さうなのは砲兵隊へ入つて、重い大砲や砲彈を曳つぱるのです。

そこで新兵として騎兵の聯隊に入營した四歳——皆さんよりは弟ですね——のお馬が、一人前の軍馬になつて演習や戰爭に出られるやうになるまでのお話に移りませう。

先づ始めには人を恐れないやうに馴らされることが大切です。いくら悧巧なお馬でも、野原や山で育つて人間をあまり見馴れてゐない間は、おつかながつて嚙みついたり、蹴つたりします。それをよく人になつかすには、何よりもお馬を可愛がつてやることいふことが大切です。手荒な取扱をしたり、いぢめたりすると、お馬は人間はこはいものだと思ひ込んで、どうしてもこれに馴れません。これは猫や犬を馴らすのと同じです。又、人間の居ない山や野原から東京のやうな大きな町の聯隊に入つて來ますと、電車や自動車が走つてゐて、あたりのさうざうしさは、見るもの聞くものがお馬にとつては驚ろきの種でせう。皆さんが始めてのところへ遠足に行つて、珍しいものを生れて始めて見たり聞いたりした時のことを考へてごらんなさい。例へば始めて海を見た時、皆さんはどんな氣持ちがしましたか。それでも皆さんは、海を見ない先きから、繪を見たり、お話を聞いたりして、海のことを知つてゐたでせう。けれども山の中で何にも知らずに飛び廻つてゐたお馬には、電車や自動車のお話をしてくれる人もありません。繪本を見せてくれる人もありません。そこへ、いきなり、ゴーッとばかりに地響きを立てゝ走つて行く省線電車や汽車を見せられるのですから、耐まりません。大ていのお馬はびつくりして飛び上るのは、あたりまへでせう。

これを馴らしてどんな所でも驚かないで歩くやうにさせるには、何度も〳〵さうした場所につれて行つて、根氣よくそれに慣れさせる他ないのです。その他戰爭に行けば大砲や戰車や機關銃の響きが天地もゆらぐばかりに轟きわたるのですから、それ等の音にも馴れさせねばなりません。何しろ、人間の言葉がわからない相手ですから一通りや二通りの苦心ではありません。

次にはいよ〳〵人を乘つける練習ですが、これも容易なことではないのです。今まで生れてから一度も人になんか背中に馬乘りされたことはないのですから、いきなりそんなことでもしようものなら、びつくりして、振り落とさうと跳ねまはるに相違ないのです。そこで最初は鞍だけを載せるのです。それだけのことをするのにも怒つたり、なだめたり、人蔘でお機嫌をとつたり、大變な苦勞です。やつと

鞍だけが載つけられるやうになるこ、今度は人の乘つた兄さんのお馬――それはもうずつこ前に入營して、やつぱり同じやうにして一人前のお馬に仕上げられた連中です――の間に入つて、いろんな運動を教はります。

人が乘れるやうになつてからも、なか〳〵一人前の馬になるまでは容易なことではないのです。手綱を引かれゝば止まるのだ、拍車があたれば駈けだすのだといふ風に、一つ〳〵教へられてゆくのです。これを調教といひます。お馬にいろ〳〵のことを教へこむことです。この仕事は仲々むづかしいので、普通の兵隊さんではなく、何年も何年もお馬と一緒に暮らして、お馬の氣性もすつかり呑み込み、馬乘りも上手なお父さんがするのです。それでも時々いろいろの間違ひが起ります。新兵の馬に乘つて、教へながら歩いて居た時、道ばたに落ちてゐた紙切れが、風に吹かれて、パッと飛び上つたのに、お馬が驚いて氣が狂つたやうに飛び出して、とう〳〵歩いてゐた人に怪我をさせ、乘つてゐた人をも振り落して、氣を失はせたといふやうな話は珍しくありません。

かうして窮屈な思ひや苦しい目にあひ乍ら、教はる方も樂ではありませんが、教へる人の方もそれは〳〵一方ならぬ苦勞をして、一年の間はごんなに雨の降る日も、風の吹く日も、一日も休まずに調教します。でないと、折角、前の日までに覺えたことを、途中で休むとすぐに忘れて失ふからです。お馬の中にも忘れつぽいのや、物覺えの惡いのがありますし、又なか〳〵利かん氣の暴れん坊もあります。そんなのは、ひどく叱られます。一年で漸く、一通りのことを覺え、二年目からは兵隊さんと一緒に演習や行軍をするのです。ですから、つまりお馬は五歳で一人前のお馬になるわけです。そして大體十五六歳から二十歳くらゐまで働らきます。十五にもなればもうお馬はお爺さんになつて、元氣がなくなります。そして若いお馬の中に交つて駈けまはつたり、跳びまはたりすることが出來ないやうになると、小さい荷物をゆつくり運んでゆくやうな仕事の方へかはらされます、皆さんが道で見かける馬車を引いてゐるお馬は、たいていかうした老寄りのお馬です。若い元氣のいゝ時に、お國の爲めにさんざん働らいて來たお馬です。ですか

ら皆さんも、さうしたお馬を見たら、溫かい氣持ちで見てやらねばなりません。棒つ切れでお尻をつゝいたりしてはいけません。

お馬の生活

兵隊さんと一緒に暮らして居るお馬はどんな一日〳〵を送つて居るのでせう。

先づお馬のお家ですが、これはまん中に廊下のある長い建物の中の兩側に、一つづゝお部屋をもらつてゐるのです。一緒の部屋に入れておくと、喧嘩をして、嚙合つたり、蹴合つたりするからです。部屋はやつと縱に一頭づゝ入れるくらゐの狹いものです。床には寢藁といつて、やはらかい藁を敷いてもらひます。これがお馬の寢床です。兵隊さんは毎日この藁を野天に引き出して、お陽さんにあてゝ乾かしてやります。お部屋の入口にはそのお馬の名札がかゝつてゐます。お馬に名があるかつてさう馬鹿にしたものではありません。草の名だとか、星の名だとか、何にかお相撲さんのやうな堂々たる名前をもらつてゐるのもあります。天皇陛下をお乘せしてゐる眞白いお馬が、白雪といふのは皆さんご存知でせう。

お部屋の隅つこに大きなお皿がこつつけてあります。この中へ、麥やたうもろこし等の御飯を入れてもらうのです。お馬も人間と同じやうに、御飯は朝とお晝と晩の三回です。何しろあんな大きな圖體ですから、ずゐぶん食べます。お金にして一日一圓ぐらゐです。それに水をがぶ〳〵飲みます。人間も水が無くては生きてゐられませんが、一日ぐらゐは何とか我慢が出來ませう。けれどもお馬は一日も水が無くては生きてゐられないのです。朝起きた時、演習に出かける時、歸つた時、夜寢る前と、何度にもわけて、たらふくお水を飲ましてもらひます。ご飯の方は、いくらでも食べさせますと、お腹をこはしますので、一日の分量がちやんと極められてありますが、水は飲みたいだけ飲ますことになつて居るのです。

朝の五時に、自分達のご主人である兵隊さんが起き出すと、直ぐに飛んで來て、朝のお手入れをしてくれます。それはこの前にお話した通り、爪を磨き、毛並に櫛を入れてくれるのです。そしてご飯を頂きます。お馬たちが朝ご飯

が濟んで、も少し欲しいなァと思つてゐると、もう兵隊さん達は自分の朝ご飯を濟ませ、銃や劍に身ごしらへして演習に出かけて來ます。そして鞍を背中にとりつけられて、一緒に練兵場に出て行きます。演習はずゐ分苦しいこともありますが、又廣い野原や山々を存分に駈け廻つて、青草のにほひを嗅ぐことは、狹苦しいお部屋に閉ぢこもつてゐるよりは、どんなに面白いか知れません。けれども、晝も夜もご飯は外でかんたんに濟ませて、一日中ぶつ通しで演習をやらされるやうな時には、お馬も家を戀しがつて早く歸りたがります。

お馬がなか〳〵悧巧なことは何べんも言ひましたが、自分達のお家である聯隊から五六里の近所の道は大てい覺えて居ります。なんかのはずみに、乘り手から離れたお馬が、たつた一人で遠方から聯隊へ歸つて來たやうなお話はいくらもあります。ですから、苦しい演習をぶつ通しでやつて夜おそくなつた時など、演習が終つていざ歸らうと、お馬の首を聯隊の方へ向けると、とても元氣づいてトコ〳〵と早く歩き出すのです。お家へ歸れば、柔らかい寢床と御馳走が待つてゐることを知つてゐるからです。

さて、演習から歸つて來ると、前に言つたやうに、すつかり身體の汗や埃を拂つて貰ひ、足を洗つてもらつて、夜の御馳走や御褒美の人蔘などを頂きます。そして夜の九時半頃も一度水を飲ませてくれると、兵隊さんも兵舍の方に歸つて寢ます。これから朝までお馬も休むのですが、皆さん！　お馬は何時間くらゐ眠ると思ひますか。あんな大ほきな身體で、一日中人を乘せて飛び廻るのだから、夜はさぞ疲れて何時間も、ぐつすり眠るのだと思ふでせうが、實はたつた二時間ぐらゐです。お父さんの友達は、やつぱり頭を使はないでのんきだからだらう、と言つてゐましたが、さァどんなものでせう。

それに、お馬は眠る時に四脚で立つたまゝ眠ります。横になつて脚を投げ出して寢てゐるのは、大變にくたびれた時か、さもなくば身體の工合の惡い時なのです。やつぱり、大分人間とは違つてゐますね。

この前から大分いろ〳〵のことをお話して、皆さんもお馬に就いて一かごの物識りになつたことゝ思ひます。最後

にこまごまとしたことを少しつけ加へて、このお話をおしまひにしませう。

皆さんの見る日本の兵隊さんのお馬は、たいてい茶色つぽい色をしてゐるでせう。天皇陛下のお乘りになつてゐる白雪號のやうな、まつ白のお馬も居るのにはゐるのです。あんなに足の先きまで眞つ白なのは珍しいとしても、少しは黑い斑や點々があつて兎も角も白い馬は居ます。これを蘆毛の馬と言ひます。昔の戰爭に出て來る大將の中には蘆毛の馬に乘つたのが大分あります。又フランスのナポレオンやずつと昔のハンニバルといふ大將等も殆んど眞白と言つていゝお馬に乘つて居ります。けれども今の日本の軍隊では白い馬は絕對に使ひません。何故だかわかりますか？目立つからです。眞白に雪の降つて居る時に戰爭する時はめつたにありませんから、山や野原を眞白なお馬に乘つて動いて居れば、すぐに敵に見つかつて、ドン〳〵打たれるでせう。ですから今軍隊で使つてゐるのは大抵茶色つぽい馬です。これを鹿毛と言ひます。中には眞黑いお馬もあります。これを青毛と言ひます。

お馬は夏には毛が短かく、うすくなつてピカ〳〵した地肌を出すやうになり、冬には毛が濃く長くなります。シベリヤや滿洲のやうな寒い所へつれて行きますと、一ヶ月もたつかたゝないうちに、ずゐぶん長い毛になるさうです。これは、皆さんが夏には薄いシャツ一枚になるのに、冬には厚い毛絲のジャケツなんかをブク〳〵に着込むのと同じです。

次にお馬のくせや性質について少しお話しませう。

馬は夜もよく見えるのです。どんなに眞暗い夜でも平氣で道のよいところを選つてドン〳〵歩きます。今頃の戰爭には飛行機が澤山あつて、空から偵察してゐますから、騎兵のやうな大きな部隊が晝間に歩いてゐるのは、すぐ見つかります。そこで夜のうちにソーッと敵に近寄つて居て、あけ方になつてドーッと攻めかゝるやうにするのですが、若しお馬が夜に目が見えず、大きな提灯をぶら下げねば歩けないとしたら、とてもこんなことは出來ません。直ぐ敵に見つかりますから、乘つて居る人間はちつとも前の見えないやうな眞つくらの晩でも、方面さへ間違へないやうに

してゐれば、お馬がズン〳〵歩いてくれます。

お馬は仲間同志大變仲のよいものです。一ところに集まると、よく鼻をつき合はせて、クン〳〵言ひ乍ら何か話し合つて居ります。そして仲間から離れて一人となるのをとても淋しがつて嫌がります。例へ大勢居るところから、一人だけ離れて斥候に行く時など、なか〳〵仲間の群れから離れません。中にはどんなに叱つても、勵ましても、どうしても一人にならないのがあります。こんなのは斥候などには行かれません。

またお馬を一直線に竝べると、みんなが我れ先きにと競爭して、先きへ〳〵と出たがります。これもお馬の癖の一つです。騎兵が馬に乘つたまゝ敵に襲ひかゝる時には、一直線に廣くひろがつて、わーッとときの聲を擧げて猛烈に飛び出すのですが、一直線になつてゐるため、平生ではとても出ないやうなスピードが出ます。

お馬が一番嫌ひなのはピカ〳〵光るものです。火や水はその爲めに馬が嫌ひます。ちよつとした水溜りでもピカピカ光つてゐるとなか〳〵近寄りません。鐵砲や大砲でも、その音には、どんなに大きな音でも、割合に早く馴れますが、あの大砲の先きから出るピカッとする光りは、何時までも怖はがります。けれどもいざ戰爭となれば、その嫌な火や水の中へでも飛び込むのです。

終りに、馬の障碍はどのくらゐ高く飛べるのかと言ひますと、世界のレコードは知りませんが、最もはしつこい元氣のいゝお馬で、一米六〇から七〇ぐらゐです。オリムピックの大障碍競爭では、一米六〇の高さで、いろ〳〵の形をしたむづかしい障碍をいくつも〳〵つゞけざまに飛び越えるのです。

では皆さん、お父さんのお馬の話はこれで終ります。今度のオリムピック大會では、日本のお馬がかうした競爭に澤山出るでせうが、どうか見事に優勝するやう、應援してやつて下さい。（終）